

平成29年度 佐賀県立白石高等学校 学校評価結果

<b>1 学校教育目標</b> 校訓「清明・自律・創造」のもとに、高い志と進んで責任を遂行する強い意志を持ち、社会に貢献できる、知・徳・体の調和のとれた、心身ともに健全な人材を育成する。	<b>2 本年度の重点目標</b> ①生徒一人一人の学習状況等に応じた『伸ばす教育・伸びる教育の推進』 ②生徒一人一人の関心・意欲に応じた『進路ガイダンスの充実』 ③ハイレベルな文武両道を目指す『質の高い授業』と『行事・部活動のバランス』 ④規範意識や礼節、報恩感謝などの素養を育むことによる『品格のある校風の醸成』 ⑤家庭や地域社会との相互理解による『信頼される学校づくり』
--	---

<b>達成度</b>	A: 十分に達成できた B: 概ね達成できた C: やや不十分である D: 不十分である
------------	---

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価							
①生徒一人一人の学習状況等に応じた『伸ばす教育・伸びる教育の推進』							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力向上	生徒の学力の向上を図ることができたか	①各教科で課題の調整を行い、1週間の家庭学習時間の平均を、1、2年生は15時間以上、3年生は20時間以上にする。 ②各学期末成績で欠点保持者を1割未満にする。 ③考査前、考査期間中の家庭(学校でも)学習の状況については、学年主任や担任に取り組み状況を確認し、期末考査後には取り組み結果を全校集会時に伝える。	①各教科で具体的に家庭で取り組むべき内容を指示し、提出指導の徹底を図る。また、機会あるごとに家庭学習習慣を呼びかける。3年生においては、白高祭(学校祭)からの気持ちの切り替え指導に重点をおく。 ②普段の課題の未提出者には、必ず個別の指導をする。考査前には成績不振者に指導を行う。また、学期ごとに成績状況をこまめにチェックし指導を行う。 ③全校集会時に、定期考査での取り組み状況についても生徒に伝え、意識向上を図る。	C	①1、2年生では、目標値を超えた生徒の割合が10%~20%程度と低調であった。逆に、1日の学習時間が1時間未満の家庭学習習慣が身につけられていない生徒が、30%~40%前後を占めた。3年生では、目標時間には届かないものの、ほとんどの生徒が家庭学習時間を確保し、受験生としての意識が感じられる結果であった。また、3年生の白高祭後の調査では、約半数の生徒が目標達成できているなど、近年の課題であった学校祭後の切り替えとしても、よい傾向が見られた。 ②③考査前学習会や保護者会、三者面談、学年集会等を利用して基礎学力の定着を訴えてきたがなかなか伝わらなかった。	①新入宿泊研修をはじめとし、家庭学習習慣の定着を機会あるごとに呼びかけるだけでなく、各教科で日々取り組むべき課題の指示と提出指導の徹底を図る。また、基礎学力の定着を確認できるテストを積極的に実施し、生徒が主体的、意欲的に課題に取り組めるようにしていく。白高祭後の気持ちの切り替え指導については、3年生は勿論のこと、1、2年生についても重点目標に据えていく。 ②③学年独自での学習時間調査を行い、課題についても与える時期や生徒のレベルに合わせて配布するなど、手帳のチェック等と合わせて指導を行い、意識改革を促す必要がある。
教育活動	◎教育の質の向上に向けたICT活用教育の実施	ICT活用教育の推進により、生徒の意欲や学力は向上したか	①教師が、生徒の視覚・聴覚を通して興味・関心を持てるようにし、学習に対する意欲を高めるようにする。 ②教師が、授業におけるICT活用効果の高めるために、授業内容の効果的な提示・展開・記録等を行う。 ③生徒が、学習に必要な情報を収集したり、繰り返し学習によって知識の定着を図ったりする。	①授業内容に関する画像・映像・図表・グラフ・音声・楽曲等を提示し、内容に集中して取り組めるようにする。 ②効果的な提示方法やタイミングの検討、提示内容の吟味、展開・記録方法等の検討を行う。 ③情報収集のために必要な時間を設けたり繰り返し学習を行うための教材・資料等を作成したりするようにする。	B	①本校の電子黒板や学習用PCの活用に関する取組に対しては、約73%の生徒が「学習に対する意欲や学力の向上に役に立っている」と回答していることから、生徒の「感覚」としての効果は十分に発生していると考えられる。 ②本校の教師の約80%が、ICT活用教育の推進によって良い効果が現れていると回答している。生徒の回答の割合とほぼ一致することから、相互に良い効果があるものと思われる。 ③の方策については、実際に生徒や教師が行ったか、確認する機会がなかったため、来年度は早めに検討の必要がある事項である。	①については生徒の意欲や学力は、「ICT活用教育の推進」を含め、様々な要素から向上していくもの考える。そのきっかけとして興味・関心を高めることの効果は重要であるため、今後も継続していきたい。 ②については効果的な提示・展開・記録等についての研修や、各教科内での検討会等を行い、より良い方法や新しい方法の開発を目指す。 ③については確認の機会を設ける、または①②の確認内容に含めるようにする。

①生徒一人一人の学習状況等に応じた『伸ばす教育・伸びる教育の推進』							
教育活動	○希望進路の実現	生徒一人一人の希望進路は達成できたか	①難関大学複数名をはじめとする国公立大学進学希望者のうち20名以上の現役合格を目指す。 ②進研模試の学習到達ゾーンで、B2以上を増やす(1年1月40人、2年1月30人、3年11月25人)。また、D層を減らす。	①成績上位者には特別指導を実施することで、難関大学合格へ向けた十分な対策を行う。また、生徒の受験機会を一般入試に限定せず、AO・推薦入試に向けた個別指導の対策にも力を入れる。 ②模試後には成績状況を提供し、各教科で生徒の学力を把握することで、適切な教科指導を行う。	B	①センター試験の卒業見込み者に対する出願状況は、前年度と比較して15.4%減少し、57.1%となり、大学進学希望者の割合が少なくなった。また、国公立大学合格者数は、AO・推薦入試が3名と伸び悩んだものの、一般入試では、難関の九州大学をはじめとする国公立大学に合格者を出し、2桁の合格者数を維持することができた。数値目標到達には厳しい状況であったが、全体的には健闘した結果であった。 ②今年度の結果は、B2以上の生徒が1年1月50人、2年1月31人、3年11月10人、D層の生徒が1、2年で20人程度、3年生90人程度であった。特に、1、2年生で取り組みの成果が表れた(2年生は3教科型を含む数値)が、3年生は苦戦した。	①大学で学ぶ意味、大学進学の特典などを機会あるごとに話し、大学進学希望者の割合を増やしたい。また、早期に国公立大学のPRを積極的に行うことで、AO・推薦入試など幅広い入試方式での進路実現を目指す。成績上位者には、教科間で連携し、個別指導での対応を継続していく。 ②今年度は、1、2年生で取り組みの成果が表れているため、このことを応用力育成など、いかにして最学年での進路達成に繋げていくかを意識していく必要がある。全教科の点数が揃っていない生徒についても、得意教科を活かしての進路達成ができるように的確にアドバイスしていく必要がある。
教育活動	○読書習慣の定着	生徒の読書への意欲や活動は活性化したか	・進路意識を高めるために、新しい図書館の配置とよりよい蔵書購入及び啓蒙を図る。 ・クラス単位の読書量を増やす。	・「特集コーナー」を設けて知的触発をする。 ・図書委員で管理する「学級文庫」については、寄贈図書を活用し、配布冊数を増やすなど充実を図り、クラスでの読書環境を整える。	A	・「特集コーナー」を設けたことで、興味のある生徒や進路に関係する生徒の意識向上につながった。 ・「学級文庫」の効果かどうか判断はし兼ねるが、微少ではあるが、各クラスの貸し出し数は増えた。	・図書部会で作成した「とにかく読もう」にある推薦図書を展示して読書の推進を図る。 ・生徒の希望図書を「リクエストカード」を利用して配置するとともに、図書館来館を促す。
②生徒一人一人の関心・意欲に応じた『進路ガイダンスの充実』							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○進路意識の向上	3年間を見通して計画的に進路情報を与えることはできたか、また、そのことによって生徒の進路に対する意識は向上したか	①担任との進路に関する二者面談あるいは三者面談を、年間10回以上実施する。また、進路検討会や普段の日常の中でも、教科担当者や部活動顧問など担任以外の先生からも様々な側面から個々の生徒への助言をする。 ②高大連携授業、職場体験活動などの学校外での活動にも積極的な参加を促す。また、オープンキャンパスや進路ガイダンスへの参加率を80%以上にする。	①形式ばった面談ではなく、気軽に話し合える雰囲気づくりに努め、面談回数の頻度を高める。また、進路検討会には学年所属以外の先生方にも積極的に参加を促す。 ②クラスや掲示板に案内を掲示するだけでなく、部活動顧問とも連携し、参加を促す。	A	①コース選択や進路希望に関する面談を機会あるごとに行うことができた。また、面談を受けての進路検討会を2、3年生で実施し、職員間の相互理解に繋げ、次回以降の面談の参考事項とすることができた。 ②1、2年生ともに進路ガイダンスやオープンキャンパスへの積極的な参加が見られた。(進路ガイダンス参加率1年生100%、2年生63%；オープンキャンパス参加率1年生38%、2年生35%) 1年生は、2学期に福岡大学を訪問後、全員進路ガイダンスに参加している。また、7月には、佐賀大学、西九州大学の説明会を全生徒及び保護者向けに実施し、大学進学への関心を高めることができた。学校外の進路ガイダンス、職場体験募集の情報についても、随時、提供することができた。	①最終学年である3年生の進路検討会はもとより、2年生2学期の進路検討会を実施することで、生徒の進路意識が早い段階で高まり、職員の共通理解にも繋がっている。来年度以降の普通科入学生は3クラス体制となり、進路検討会などを通して、さらに進路情報の共有を小まめにしていく必要がある。 ②入試改革に伴い、進路研究の取り組みの前倒しが必要となり、進路指導年間計画の見直しを図る必要がある。また、本校作成の進路情報誌『白高情報誌』を活用する時間を確保し、各学年の段階に応じた進路指導を行ってきたい。
教育活動	○「総合的な学習の時間」を通じた進路意識の向上	1年:自分の進路について考え、それに添ってグループで研究することができたか 2年:自分の進路実現の方策について研究し、個人で研究することができたか 3年:入試に応じた研究をするとともに、志望理由についても明確にすることができたか	1年:「夢を創るとともに、知る」 ・自己理解等を通して将来を見つめる。 ・グループで自分の問題を探る。 2年:「夢を実現するために、深める」 ・大学の学部・学科等の研究をする。 ・個人で自分の分野の問題を探る。 3年:「夢を実現するために、次へ進む」 ・自分の進路に応じた研究をする。 ・自分の進路志望理由を確認する。	1年:「夢研究」においてワークシートを用い、自己理解に基づいて夢を確認する。また、グループ研究において自分の分野の問題について考えさせる。 2年:職業・学部学科についてまとめさせる。また、個人研究において自分の分野の問題について考えさせる。 3年:個人研究において自分の分野の問題についてまとめさせる。また、自分の進路に対する理由書を完成させる。	A	年度当初の計画に基づき、各学年の「総学」担当者の指示に従い、取り組むことができた。3学期には、「夢を形にプロジェクト」を開催し、1年生は7グループによる発表を行い、2年生は7名の代表者による発表をすることができた。その際、発表者以外の生徒は、評価を行うことで活動に取り組んだ。	次年度は、1年生においては、商業科キャンパスの生徒と合同で「総学」発表会を開催する方向で計画を進めたい。また、発表会の際には、近隣の中学校にも事前に連絡をして、発表を見てもらうことで、より白石高校を身近に感じてもらうようにしていきたい。

③ハイレベルな文武両道を目指す『質の高い授業』と『行事・部活動のバランス』

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	○教職員の資質向上	教職員の授業力向上のための研修は実施できたか	<p>①互見授業、および職員間の授業参観を実施し、授業力の向上に努める。</p> <p>②授業評価を実施することで生徒の授業の理解度を把握し、授業内容の改善に努める。</p> <p>③指導力向上のための研修会への参加を支援する。</p>	<p>①互見授業後の授業研究会、および授業参観後の評価・感想を通して、授業の改善に必要な内容を知る。</p> <p>②2学期に授業評価を実施し、業績評価表にリンクさせるとともに、授業の改善に役立てる。</p> <p>③研修会や研究会等の情報提供を、積極的に行う。</p>	C	<p>①各教科担当者の代表による互見授業は予定通りに実施され、評価・感想の記入・伝達までは充分にみられたが、初任者や3年経過者等の研修を除き、授業研究会が行われた回数が少ない。</p> <p>②授業評価実施後の集計結果について、各授業担当者による確認までに留まり、その後の授業改善に向けての具体的な取組を提案できていない。</p> <p>③企画部だけでなく、各分掌からの情報提供も広く行われたが、企画部独自のものは多くなかった。</p>	<p>①日程や時間帯などが確保できるようにし、可能な限り授業研究会を行い、授業者と参観者の意見交換を行うことで授業参観の効果を高める。</p> <p>②集計結果について、各授業担当者による分析と活用を依頼するとともに、分析内容を授業に生かす方法を検討する。</p> <p>③研修会や研究会についての情報収集を入念に行う。</p>
教育活動	○主体的な生徒会活動	主体的な生徒会活動により、生徒会や委員会活動は活性化できたか	各校務分掌と生徒会各部で連携をとり、各種委員会活動の活性化を図る。	生徒総会を実施し、各部の目標を全校生徒で確認し、計画を実施する。	B	生徒総会を実施し各部の目標と活動内容の確認を全校生徒で行えたが、活動状況や実績については、各部の取組に差があった。	関係校務分掌の先生と各部部長が活動内容等の話し合いの時間を確保し、計画を実行できるようにする。
教育活動	○部活動の活性化	文武両道の推進を図ることができたか	<p>①部活動加入率85%以上にする。</p> <p>②全国大会出場2部、県ベスト4以上3部、県ベスト8以上5部を目指す。</p> <p>③完全下校時間を厳守する。</p>	<p>①新入生に対して部活動紹介や勧誘または見学などを行い、入部しやすい環境を作る。</p> <p>②限られた時間の中で効率のよい練習を行い強化を図る。</p> <p>③学習時間確保のためにも下校指導を徹底し、学習しやすい環境を作る。</p>	B	<p>①本年度の部活動加入率は、86%であった。</p> <p>②全国大会へ4部(運動部2部、文化部2部)、県ベスト4以上3部、ベスト8以上4部と、ベスト4以上までの目標は達成できたが、ベスト8以上の部は目標達成できなかった。</p> <p>③完全下校時間の厳守は、実行できている。また、日々の学校生活の中で、部活動も精力的に活動できた。</p>	<p>①各学年とも協力して今後も維持できるようにさらなる工夫をしたい。</p> <p>②文武両道の実践のため、生徒会として学習環境を整えるとともにベスト8以上の部活動を増やせるように部活動でも強化していきたい。</p> <p>③下校時間の厳守のため今後も下校指導を継続して行う。</p>

④規範意識や礼節、報恩感謝などの素養を育むことによる『品格のある校風の醸成』

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○規範意識やマナー	規範意識やマナーは向上したか	①服装・頭髪検査を学期に2回は実施し、高校生らしい爽やかな身だしなみにする。 ②校則を遵守する意識を高め、問題行動の未然防止に努める。	①生徒会や学年団と連携し、毎朝の挨拶運動、登校指導を実施する。全職員で指導に当たり、見逃さず見捨てない指導を心がける。 ②ホームルーム、集会時に校則を遵守する指導をする。生徒代表から全校生徒に呼びかけをさせる。	A	①登校指導は毎朝昇降口で実施できた。服装検査は、2学期に1回しか実施できなかった。服装指導については、普段の生活の中での細かい指導が必要であると感じた。 ②機会があるたびに担任や学年主任から指導をもらった。また、全校集会時には、生徒代表から全校生徒に対して話をする時間を設けた。	①服装検査は考査の最終日などを利用して、学期に1回は実施したい。 ②全職員共通理解を持って指導にあたる。職員の指導に温度差がないようにしなければならない。
教育活動	○安全や防犯	安全、防犯意識の高揚を図ることができたか	①登下校時の安全、防犯意識の高揚を図る。 ②校内での私物の紛失がないように自己管理を徹底させる。	①交通・防犯・薬物防止講話などを通して、安全・防犯に対する意識の高揚を図る。 ②自転車点検、自転車の施錠点検を実施し、自己管理能力を高める指導を行う。	B	①警察からの講話を聴いて、生徒たちの安全・防犯に対する意識の高揚は図れたと思う。また、登校時、送迎車の停車区域を決め、交通安全に努めた。 ②自転車の施錠がまだ徹底されていない。個人の所有物については貴重品の管理を含め引き続き指導していかなければならない。	①生徒の安全・防犯に対する意識の高揚は引き続き図りたい。登校時の送迎車の交通安全に対して再度徹底したい。 ②まずは自己管理を徹底させる。そして、移動教室の際は教室を施錠するように指導する。
教育活動	○情報モラルや情報セキュリティ	生徒の情報モラルを高め、情報セキュリティへの意識を高めることはできたか	①個人情報について理解させ、個人情報の取り扱いに留意させる。 ②SNSの活用について指導を徹底する。 ③情報モラル・情報セキュリティの重要性について意識を高める機会を設ける。	①ホームルームや集会等での講話の中で、繰り返し注意喚起を行う。 ②定期的にネットパトロールを実施し、問題行動の未然防止に努める。 ③情報モラル・情報セキュリティに関する講習・研修などの案内を行う。	A	①②については、全校集会で情報モラルに関して生徒向けの研修をおこなった。 ③については、2学期末に、情報モラル・情報セキュリティに関する講習を実施した。このような講習会や授業などを通じた日頃の取組により、約85%の生徒は、本校の情報モラル・情報セキュリティについての指導が「大いに意欲的」または「やや意欲的」と答えている。	①②③について、情報モラル・情報セキュリティについては、始業式・終業式など各学期の節目や、全校集会・学年集会などでその重要性を伝える機会を設け、意識を定着できるようにする。
教育活動	●心の教育	思いやりのある豊かな心をはぐむことができたか	①ホームルーム活動や講演会等を通して心の教育の実践を図る。 ②地域への理解をすすめる、郷土を愛する心を育てる。	①学期ごとのボランティア活動やテーマごとの講演会を開催し、思いやりや人間性豊かな生徒の育成を図る。 ②「佐賀のことを学ぶ時間」において、講話やホームルーム活動を計画し、白石や佐賀のことについて理解を深めるとともに、伝統行事への参加や郷土料理実習などの体験の機会を設ける。	B	①各学年ごとに、地域の清掃ボランティア活動に取り組んだ。また、性に関する講演会で性の多様性について理解を深めたり、教育相談講演会を通じ自己理解をすすめることができた。 ②「佐賀のことを学ぶ時間」の学期を通しての活動や講話により、白石や佐賀のことについて理解を深めることができた。今後、地域への積極的な関心へとつなげることが課題である。	①クラスにおける人間関係に不安を抱える生徒も多く、状況を把握しながら、心の教育につながるホームルーム活動等を計画していく。 ②校内での取り組みを継続しながら、校外における行事へ参加や、地域の人々との交流を積極的にすすめる。

⑤家庭や地域社会との相互理解による『信頼される学校づくり』

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●いじめ問題への対応	いじめの早期発見、早期対応に向け、いじめ防止基本方針を踏まえた取り組みはできたか	①部活動におけるいじめ問題を未然に防ぐ。 ②各学年や部活動顧問と連携し、気になる生徒の把握に努める。	①各部顧問と連携して、各部の実態把握に努める。 ②保健室来室者の状況、学年や部活動からの生徒状況報告を定期的に行い、情報を共有する。	B	①部顧問と定期的に情報共有する場を設けられなかった。このことは今後の課題である。 ②学年や部顧問からの情報を、毎週の保健指導部会において共有する中で、スクールカウンセラーとの面談につなげるなどし、予防に努めた。	①今年度も部活動にからむいじめはなかった。今後も未然防止に努めていかなければならない。そのためにも日頃から部顧問との情報共有をしていきたい。 ②予防的な生徒指導として、生徒の状況に応じ、教育相談だよりの活用や、教育相談講演会、人権・同和教育講演会等を行っていく。
学校運営	○保護者との連携	学校行事等への保護者の参加者数は増えたか	年3回の評議員会、5月のPTA総会、体育祭時の駐車場係、文化祭時のPTA/バザー等への積極的な参加を呼びかける。そのためにも、情宣活動をしっかりとっていく。	まずは、生徒を通じて、各種行事の案内文を早めに渡すように準備する。同時に、スクールニュースに案内を配付した旨の文章を載せ、保護者へ確実に連絡内容が届くように努める。	C	評議員会には忙しい中でも出席していただき積極的にご意見を出してもらった。PTA総会の出席率は、情宣活動にも関わらず、低かった。	保護者に学校に来てもらう機会は限られているので、まずは、生徒を通じて家庭への連絡をきちんととるように指導をすることが第一である。同時に、学校の行事については、スクールニュース、ホームページ等を通じ、保護者への周知を図る。
学校運営	○情報発信	学校情報の積極的な発信はできたか	①「白石高だより」を年5回以上発行し、学校情報を外部に積極的に発信する。 ②学校HPを通じて、学校行事の内容・予定、部活動の活動状況等を積極的に発信する。 ③学校説明会、体験入学については、新白石高校に向けての内容を吟味し、より分かり易く魅力的なものにする。	①「白石高だより」の発行については、保護者・中学生等へのより効果的な情報発信のための配布方法を検討する。 ②HPの内容の定期的な更新を心がけ、できるだけ新しい情報を提示する。各部活動には、少なくとも学期ごとの更新を依頼する。また、生徒・保護者への周知を図るため、職員もHPの最新情報を把握できるよう情報を提供する。 ③学校説明会、体験入学については、パワーポイント等を利用し、分かり易いものにする。	C	①最終的に「白石高だより」の発行が4回にとどまり、本年度は年5回以上の発行はできなかった。今年度は百周年記念行事も行われ、記事になり得る機会は多かったが、担当者の偏りもあり発行回数が少なかった。 ②主な学校行事の後には一両日中の内容更新に努めてきた。しかし、各部活動の内容更新については、顧問への更新方法の通知が不十分であったためか、更新が進んでいない部が散見された。 ③学校説明会や体験入学において、パワーポイント等を用いながら、できるだけ具体的な説明をすることができた。	①年度初めの時点で、発行時期と紙面内容を十分に検討するとともに、担当者を分担し発行しやすくする。 ②学校行事等の更新については、今年度同様の取り組みを目指す。また、各部活動の内容更新については、今年度3学期に開始した、各顧問から企画部担当への情報提供を通しての更新を継続させる。 ③具体的な活動名を挙げながら、より魅力的な学校をアピールできるように、説明会の内容を検討する。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目(あれば記入)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●健康・体づくり	望ましい生活習慣の確立と自己管理能力の向上を図る	①生徒の食や健康に関する意識を高め、自己管理能力の育成に努める。 ②保健室利用者数年間900人未満を目指す。 ③保護者と連携して健康管理・生活管理を推進する。	①定期的な「保健だより」の発行、講話を通して、食習慣や運動の重要性、健康管理に対する意識を高める。 ②毎週の保健指導部会において保健室の利用状況を確認し、状況に応じて、スクールカウンセラー・学年・保護者と連携を図る。 ③1学期の三者面談時に、定期健康診断等の結果を保護者に渡し、必要に応じて再受診を勧める。	A	①定期的な「保健だより」「教育相談だより」の発行・保健講話に加え、食や健康に関する情報掲示を行うことで、意識づけを行った。 ②毎週の保健指導部会や学期ごとの情報交換会で生徒の情報共有を行い、生徒支援につなげた。1月末までの保健室利用者は755人で、昨年より約9%減少したが、頻回来室者の対応について学年との連携をさらに進める必要がある。 ③1学期の三者面談時に定期健康診断結果一覧を配布し、再受診を促した。10月には、風邪・インフルエンザ予防についての保護者あて文書を配布し、家庭との連携を図った。	①個々の生徒の状況に応じた保健講話等を計画し、自己理解をすすめる。 ②各学年ごとに、教育相談担当者をおき、校内連携を強化する。 ③定期健康診断後、速やかに受診勧告を行い、受診率の向上を目指す。

●は共通評価項目のうち必須項目、◎は共通評価項目のうち特定課題、○は独自評価項目

#### 4 本年度のまとめ・次年度の取組

・生徒・保護者アンケートから、本校の教育活動に関して、おおむね肯定的な意見をいただいた。また、学校全体としても、重点目標の実現に努力してきた。平成28年度よりも肯定的な意見の割合が高くなった項目が多くなり、取組の成果が表れたものと考えられる。

・個々の生徒がバランスのとれた人間形成を図っていくために、部活動と学習の両立を図ることや家庭学習の時間確保などを通して、自己管理能力を高めることが今後の課題である。

・ボランティア活動や海外研修を含む校外研修活動など、自ら積極的に自己啓発に取り組む生徒が増えてきている。学校として学外活動に係る情報を収集し、生徒に提示していきたい。(海外研修経験生徒 H27年度1名 H28年度5名 H29年度21名)

・次年度の取組として検討しているのは以下の事項である。

- ①新白石高校の教育内容の充実を図った魅力づくりの推進
- ②広報活動による積極的な生徒募集
- ③多様化する生徒に対応できる教育環境の整備・充実への取組
- ④地域や保護者に「より信頼される学校づくり
- ⑤さらなるグローバル人材の育成(本年度の取組拡大)